

# 特集「超スマート社会を支えるコンピュータセキュリティ技術」の編集にあたって

越前 功<sup>1,a)</sup>

ネットワークの高度化や計算機の処理能力向上・小型化により、ネットワークにつながれたセンサ群がいたるところに存在し、生活のあらゆる時間と空間で有益なサービスが受けられるようになった。一方で、個人情報をはじめとした生活に関わるあらゆる情報がネットワーク上を流通し、計算機により管理・処理されており、それらの窃取を目的としたサイバー犯罪も手口が多様化・高度化している。サイバー空間と現実空間が高度に融合した「超スマート社会」で生活する私たちにとって、コンピュータセキュリティ技術は私たちの生活を守るだけではなく、新たな価値を創造する技術基盤として日々の技術革新が求められている。

本特集号は、超スマート社会を支えるセキュリティ技術、さらには超スマート社会の先にある新たな価値を創造するセキュリティ技術について、基礎理論や実装技術だけではなく、行動科学や社会科学的考察を含めた課題と解決策を広く深く議論することにより、社会インフラとしてのセキュリティ技術の進展に寄与することを目指して企画された。

本特集号では、38件の論文が投稿され、特集号編集委員会による慎重な審議を経て、英文論文3件を含む19件の論文が採択された。採択率は50%であり、近年の特集号の中では比較的高い採択率となった。これは、ひとえに本特集号の編集委員および査読者による適確な著者への助言と、著者の方々による真摯かつ適切な対応の賜物であり、この場を借りて深い感謝を申し上げたい。

さらに本特集号では招待論文として、産業技術総合研究所の花岡悟一郎氏、松田隆宏氏、山田翔太氏、坂井祐介氏に、近年注目されている高機能暗号技術の研究動向について執筆いただいた。本論文の掲載が、個人情報などの機密性の高い情報の利活用に貢献できれば幸いである。

特集号の編集にあたり、限られた時間の中で、質の高い査読と編集作業を経て、予定どおり出版までたどりつくことができたのは、編集委員、査読者、招待論文執筆者、学会関係者の方々の多大なご尽力のおかげであり、厚く御礼

を申し上げたい。特に、大東俊博幹事（東海大学）、渡邊裕治幹事（日本IBM）には、特集号編集委員会の中心として献身的にご尽力いただいた。心より感謝申し上げたい。

「超スマート社会を支えるコンピュータセキュリティ技術」  
特集号編集委員会

- 編集長  
越前 功（国立情報学研究所）
- 幹事  
大東俊博（東海大学）  
渡邊裕治（日本IBM）
- 編集委員  
宇田隆哉（東京工科大学）、大木哲史（静岡大学）、大久保隆夫（情報セキュリティ大学院大学）、岡本 健（筑波技術大学）、沖野浩二（富山大学）、加藤岳久（東芝）、金岡 晃（東邦大学）、菊池浩明（明治大学）、齋藤孝道（明治大学）、佐々木良一（東京電機大学）、島岡政基（セコム）、須賀祐治（IIJ）、高倉弘喜（国立情報学研究所）、高橋健一（鳥取大学）、千田浩司（NTT）、手塚 悟（慶應大学）、寺田真敏（日立製作所）、寺田雅之（NTTドコモ）、鳥居 悟（富士通研究所）、中西透（広島大学）、西垣正勝（静岡大学）、西出隆志（筑波大学）、朴 美娘（神奈川工科大学）、畑田充弘（NTTコミュニケーションズ）、堀 良彰（佐賀大学）、本郷節之（北海道科学大学）、松浦幹太（東京大学）、満保雅浩（金沢大学）、宮地充子（大阪大学/北陸先端科学技術大学院大学）、村山優子（津田塾大学）、毛利公一（立命館大学）、森 達哉（早稲田大学）、安田雅哉（九州大学）、山内利宏（岡山大学）、山田 明（KDDI 総合研究所）、吉岡克成（横浜国立大学）、吉浦 裕（電気通信大学）

<sup>1</sup> 国立情報学研究所  
National Institute of Informatics (NII), 2-1-2, Hitotsubashi,  
Chiyoda, Tokyo 101-8430, Japan

a) iechizen@nii.ac.jp